

玉田のホタル探索会

玉田地区のホタル探索会が六月二十一日(土)の午後七時半から開かれました。玉田の公民館には、網や虫かごを持った園児、小学生とその両親が五十名ほど集まり、今年からコリーナの子ども達が参加し昨年の倍ほどの人数になりました。

玉田とコリーナはもとも育成会が同じで、小学生の登下校は一緒に待ち合わせて行っており、今年から育成会の行事に玉田の田植えやホタル探索会を一緒に行う計画が立てられました。先月には、古代米を使った「田んぼアート」の田植えがあり、それにもコリーナの子どもたちが参加し、初めての田植えとさなぶりをみんなで楽しみました。

玉田地区では、集落営農が昨年から行われ、地区内十世帯の農家が共同で農作業を行っています。

今年は県と市の認定を受け、地区をあげて無農薬と化学肥料を減らした農業が行われています。

また自然観察を玉田地区の全住民が参加して行い、どのような生き物がどのくらい生息しているかの調査を定期的に行っています。今回のホタル探索会も、ホタルの生息を確認しながら行われました。八月には、川の生き物の生態観察が予定されており、そこにもコリーナの子どもたちが参加する予定になっています。

玉田地区では、ホタルの生息数が五十年前の数に戻ってきただけでなく、ハッチョウトンボの生息も確認されています。

コリーナ地区の親子が自然観察や田植え、稲刈りの農作業にも参加し、コリーナの夏祭りに玉田の「子どもみこし」が参加することで、住民同士が交流する計画が進められています。



矢板市土屋箒川沿い
撮影 仲島記者



ほまほまのこい 土屋・用水 堀にホタル が飛び交う

市境を流れる箒川沿いの用水堀に、毎年ホタルの群集が発生し、美しい光を放っています。周辺の麦畑を耕作していた方々は日中の堀を見るばかりで、夜のホタルの競演を近年まで気付く事がなかったそうです。それが功を奏したのか、堀には川からとわき水の混じった豊かな流れがあり、クレソンや川藻が着生した堀底にカ

ワニナが多く生息する良い環境が残っていました。

この素晴らしい環境を更に整備し、ホタルの飛び交う場所を守っていききたいという周辺の方々が協力し合い、今では矢板のホタルの名所の一つになっています。

より豊かな環境を作るために、カワニナを放したり、クレソンや川藻の植え付けなどを行っています。

矢板の名産紹介 矢板の旬を送ってみませんか

(財)矢板市農業公社 「緑とつづの 八方高原ふるさと便」

贈り物を選ぶ時、一番に考えるのは送り先の喜んでくれる「笑顔」です。矢板の「おいしい」がたくさん詰まった「ふるさと便」はそのニーズに合った商品です。

「ふるさと便」矢板市内で生産される、農産物を広く市外にPRするために始められました。今年で八年目、特に矢板を離れて暮らす人から大変大きな反響が得られているそうです。送られた側が今度は送る側へ、リピーターも増え出荷数は右肩上がりです。ふるさと便の味は多くの人々の心に届くはず。ふるさと便は市内の農産物の生産、消費の拡大にも繋がる大切な事業の一つといえるでしょう。

昨年はトータルで千個弱出荷。十二月便には、十二品目が詰め込まれました。市の体育館などを利用して、組合員総出で箱詰め作業が行われるそうです。

箱の中身は、米・野菜・たまご・モチ・ミソ・イチゴ(果物)・花などが少量ずつ詰め込まれ、核家族にちょうど良い分量でさまざまな食材が楽しめる内容となっています。



これは野菜便 3,500円

申し込み・問い合わせ
矢板市ふるさと便推進協議会事務局
(財) 矢板農業公社 0287-43-2650

今年度は市制施行五十周年記念事業として、「ふるさと便」のパッケージデザインを公募します。募集期間は九月三十日まで(詳しくは農業公社へ)。

新しい「ふるさと便」の顔をみなさんもデザインしてはいかがでしょうか。入賞者には商品として「ふるさと便」がいただけるそうです。

はじめは告知や宣伝が行き届かず、販売数は伸び悩みましたが、毎年の事業を重ねることによって口コミやリピーターも出てきたそうです。広報やいたやホームページなどで案内と募集をしています。

申し込み数によって、農産物を集めることは色々な苦労もありますが、JAの各生産支部・市内で運営されている直売所の皆さんなど多くの関係団体の協力により、充実した内容の「ふるさと便」が出来上がっているそうです。